

イノベーション25

～昨日の夢は、明日の現実～

昨年、安倍総理が就任されて間もなく、「イノベーション25」という“日本再活性化のための2025年までの長期戦略”を来年（つまり今年）6月頃までに策定する、と宣言されました。小泉内閣は、郵政民営化に代表される「行財政・構造改革」がキャッチフレーズでしたが、安倍内閣のキャッチフレーズは、「イノベーション25」です。政府は、イノベーション担当大臣を置き、また「イノベーション25戦略会議」を設置して検討を開始しました。黒川清日本学術会議議長を座長に、経済人、学者など7人で構成されています。

ところで、「イノベーション」というこのカタカナ語、英和辞典を引いてみますと、「新しく採り入れたもの（新考案、機軸、制度、施設など）；改変〔工夫〕したもの」とあります。戦略会議は「単なる技術改革ではなく、これまでのモノ、仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと」と説明しています。

今年2月、戦略会議が「イノベーション25中間とりまとめ」を公表しました。中間取りまとめでは、これから20年後の2025年、日本国民の生活が「イノベーション」によってどのように変わっているかを、具体的な例で示し、それを実現するために、今現在どのような基礎技術や理論があり、今後どのような技術的な発展があればそれが実現するか、を説明しています。そして、政府はその「技術的な発展」のために何ができ、何をすべきかを検討し、政策を立案、実行する。それが、「イノベーション25」だというわけです。

政府は、検討に先立って国民から「20年後にこうなっていたらいいな」という夢を募集し、それらを参考に20の事例を上げています。例えば、次のようなものです。

「骨・軟骨、皮膚、歯等の再生や増殖、移植技術が進んで、高齢になっても50歳と同様な身体機能を持つことが可能になる。また認知症に対する特効薬などが開発され、健常者と変わらないような生活ができるようになる。」

「がん、心筋梗塞、脳卒中など三大成人病に対する画期的医薬品、医療技術が開発され、これらの病気に対する心配がなくなる。」

「走れば走るほど空気をきれいにする自動車ができる。（人工光合成技術の利用等により、CO₂（炭酸ガス）をエネルギー源とする車を実現する。）」

「紙のように巻いたり、丸めてポケットに入れられるディスプレイが開発され、丸めて持ち運べば、どこでも最新のニュースや映像が見られる。」

ホントに20年後にできるの、という方もおられるかもしれませんが、中間とりまとめでは、現在の基本技術や研究の進展状況などを踏まえながら、20××年頃実現、と時期まで予測しています。

こういう夢のある政策はいいですね。私は薬学の出身ですので「ガンなどの画期的新薬の開発推進」のための政策の実現は、私の政治課題の一つです。

私の大好きな言葉に、米国の近代ロケットの父といわれるロバート・H・ゴダードという博士の言葉があります。

「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

あと 20 年、皆様、頑張って長生きして、2025 年の日本をぜひ見ましょう。